



『是非とも初心忘るべからず』

校長 赤木 宏行

日本の伝統的な芸能の一つに「能」があります。能というのは、中国から伝わった散楽から発展した猿楽を室町時代の観阿弥・世阿弥父子がまとめ上げたものです。この世阿弥という人が、能について書いた「花鏡」という本があります。その中に「是非とも初心忘るべからず。時々の初心忘るべからず。老後の初心忘るべからず。」という言葉があります。だいたいの意味は、物事を始めるときにこうしようと思った最初の心は、是非忘れないようにすべきである。また、いろいろな時に新たにこうしようと思った心も忘れてはいけない。さらに、年を取ってからでも、新たにこうしようと思った心も忘れてはいけない。という意味だと思えます。

新しいことに向かう時には、人間は誰でも今後はこうしてみようとか、こんなことをしてみたいと思うものです。例えば、君たちがこの北町中学校に入学して来た時のことを考えてみて下さい。中学校では、こんなことをしてみたいとか、こんな部活動に入って頑張ろうとか、新しく始まる英語はしっかり勉強しようとか、いろいろ考えたり決心したりしたことがあったのではないのでしょうか。この入学した時の新しいことにチャレンジしようと思って心に決めたことが、中学生としての初心なのです。この春入学してきた新しい1年生は、まさにこの初心の心を胸一杯に膨らませていると思えます。

中学生としての初心を持ってから、今日で2年生となった諸君は1年がたち、3年生となった諸君は2年がたちました。入学した時心に決めた初心は、今どうなっているのでしょうか。うまくいっているという人もいますが、どうもうまくいっていないという人や、中には何を考えたのか忘れてしまったという人もいるかもしれません。

新しい年度のスタートに当たって、入学の時新鮮な気持ちで、今度はこうしようと思った初心を思い出して欲しいのです。うまくいかなかったという人は、この1年間か2年間の生活の中に、せっかくこうしようと思心に決めたのに、うまくいかなかった原因が必ずあるはずで、どこを直したり工夫したりすればよいのか、新入生の頃よりはるかに成長した君たちにとって、考えることはそれほど難しいことではないと思います。そして、少しずつ工夫を重ね、新しい2年生・3年生として、充実した生活をスタートさせて欲しいと思います。新しい1年生は、希望を持ってこの北町中学校に入学してきたのですから、今心に持っている初心を大切にして下さい。

人間は慣れてしまうと、つい惰性に流されやすくなります。昨日があったから今日があり、今日があるから明日があるのです。昨日と同じ今日ではなく、今日と同じ明日ではないのです。人間は日々少しずつ身体も心も成長していきます。昨日の上に今日があり、今日の上に明日があるように、一日ずつ向上していくことが、人間らしい生き方なのです。入学の時に抱いていた新鮮な気持ちと、今度こそこうしようという決心を持って、この1年間の生活をスタートさせてください。

